

五島市図書館友の会だより

第6号(2016.10.20)

発行所 五島市図書館友の会

新宿区立中央図書館体験記

新宿区下落合、西武新宿線沿いに中央図書館があった。

役所の建物らしいガッチリとした三階建ての、一階部分は空間でオープンエアの階段が二階に伸び、カギ型に曲がると、そこが図書館の入り口だった。

夏になると階段を学生が並び開館時間を待つ。自習室があったのだ。入って進むと閲覧コーナーがあり、新聞・雑誌・週刊誌が豊富で、書見台があり、ソファがあった。会話も許されていた。

昭和40年代高度経済成長期で、新宿西口にダンボール村が出現し、高田馬場駅付近に立ちん坊が立ち、戸山公園あたりにねぐらを構える人たちが人夫として雇われる。その日の仕事にあぶれた中で一部は駅のコンコースでは酒盛りを始め一部の人たちは図書館にきた。書架の本を借りるためのカードは持たない。彼らにとって、スポーツ紙・雑誌（週刊実話、週刊大衆、宝石、東スポ、スポニチ）は数少ない楽しみのひとつだった。何よりも冷暖房があり、地面にいつも寝てる彼らにはソファで憩えるのは何よりも慰めだったと思う。

閲覧コーナーの横に索引カードがあり、そこで検索できた。



「カウンターの様子」著作権了承済み
新宿区立中央図書館ホームページより

奥に視聴覚コーナーがあり、レコードは閉架だったが、視聴機がありイヤホンで聴けた。

平日は9時に開館し、その当時は閉館は午後8時だったと思うが、今は9時45分まで開いている。

中央図書館は利用者の層が時間帯によってガラリとかわる。朝は学生、昼間は浮浪者、夜は勤め帰りのサラリーマン。(新聞を複数読めるのは、情報収集には欠かせなかったから)

これらの人達と違い、閲覧もしない、勉強もしない私はひたすら知らない分野の本を借りまくりました。大型本、過去に出版された本、高価すぎて開いてみることも出来ないような本も沢山あった。中央図書館は特色のある図書館で、ある分野では群を抜いているものがあつた。蔵書も新宿区最大で20万冊を超える。それに図書館は情報の発信地だった。

辞典等の参考図書コーナーはゲートがあり、手荷物やカバン等はロッカーに預けないと入室ができなく、貸出はなかった。三階にはホールがあり、定期的に古い映画が上映されていた。講演会などもあつた。

下落合に全国学生援護会(名称は確かではない)があつたりした関係か就職活動支援コーナーがあり、会社のパンフレット等があり求人情報が手に入った。役所の届けや、保健所で何曜日に何が受診できるか、美術館・植物園などの行事、展覧会のポスターが貼られている。

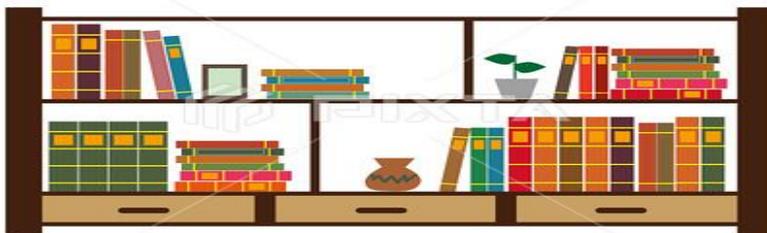
私は神代植物園の農園講座を受け、神代植物園の農地で作物を植えるという経験をしました。板橋図書館はミSSIONナリーとして来日した学生が英語を教えているというので友人と参加しました。東京消防庁の人、役所勤めの人、デザイナーと多彩で終了後に近くのフェミレスでお茶を飲み、どっちが主だったかわからなかった。

新宿区では角筈図書館・大久保図書館も利用した。文庫・近刊書・ハウツー本が主だった。目白通りをこえると豊島区で、少し離れているが熊谷守一美術館があり時々観に行き、そばの椎名町図書館も利用した。

本屋と古本屋と図書館は必需品だった。

慣れ親しんだ中央図書館は移転し、戸山中学校に仮の形で続いているが、

大きくかわり、自習室はなくなった様です。早稲田大学の隣ということもあり早稲田大学・富士大学（元の中央図書館の前にある）あと1校、カードを作ると利用できるそうです。カードを作るには身分証、写真 2,000 円が入用とのことです。



pixta.jp - 18847382

[リレーエッセイ 5]

橋本 富子 （五島市図書館友の会会員）

最近の活動から

毎月、図書館休館日に館内の「アートひろば」展示作業をしています。

掲示期間は2カ月間

7月～8月の掲示は写真「国宝白杵石仏」（松山 治さん）



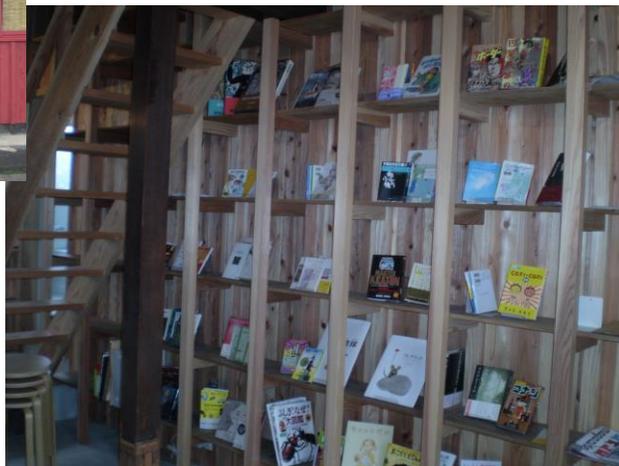
9月～10月の掲示は小物作り「華みずき・松本先生と13人」



展示をしてくださる方を募集中！

行ってきました！古民家が小さな図書館「さんごさん」に（富江町）

9/30日、展示作業のあと4人で見学に。「人生の3冊」コーナーも、読みたくなるレイアウトで、今後の活躍を期待しています。ちなみに私（坂井）の3冊は『古代への情熱』『海からの贈物』『ゲド戦記1』を寄贈しました。



☆展示作業・書棚の整理のお知らせ

毎月図書館休館日／午前10時～11時
11月1日（火） 11月30日（水） 12月27日（火）

★第8回「読書会」

12月20日（水） 午前10:00～

編集後記

予算編成の時期です。新図書館建設の基本構想が早くまとまり、基本設計に予算がつくこと、首を長くして待っています。20年オープンを夢見て。
時は「読書の秋」待ちに待った涼の季節、「読むぞ～」

K・S